

ヒノヒカリ、ツクシホマレの食味に及ぼす施肥の影響							
<p>〔要約〕 玄米の窒素含有率は食味に影響し、含有率が上昇すると食味が低下するが、ヒノヒカリはツクシホマレより食味の低下程度は小さい。基肥量は玄米の窒素含有率に及ぼす影響は小さいが、追肥時期は遅くなるほど玄米の窒素含有率が上昇し、食味が低下する。</p>							
農産研究所・栽培部・作物栽培研究室					連絡先	092-924-2937	
部会名	農産	専門	栽培	対象	稲類	分類	研究

〔背景・ねらい〕

近年、ヒノヒカリ等の良食味品種の導入により米の食味改善が進んだが、栽培法の面からも食味向上技術が求められている。特に、玄米の窒素含有率は食味と関連が高く、窒素施肥法との関連を明らかにする必要がある。そこで、ヒノヒカリとツクシホマレを用いて玄米窒素含有率と食味の関係や玄米窒素含有率に及ぼす施肥の影響について明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- ①玄米窒素濃度が高いほど食味が低下する。食味の低下程度には品種間差が認められ、ヒノヒカリは食味の変動が小さいのに対し、ツクシホマレは変動が大きい（図1）。
- ②追肥施用時期が遅くなるほど玄米窒素濃度が上昇する（図2）。
- ③玄米窒素濃度に対する基肥量の影響は、追肥施用時期に比較して小さい（図2）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①玄米窒素含有率から食味を判断する場合の資料として活用する。
- ②施肥により食味改善を図る基礎的資料として利用する。

[具体的データ]

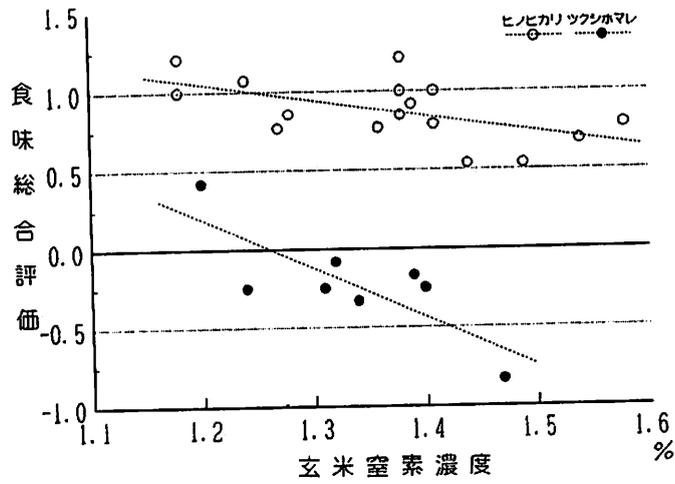


図1 玄米窒素濃度と食味（平成3年）

注）基準米は日本晴

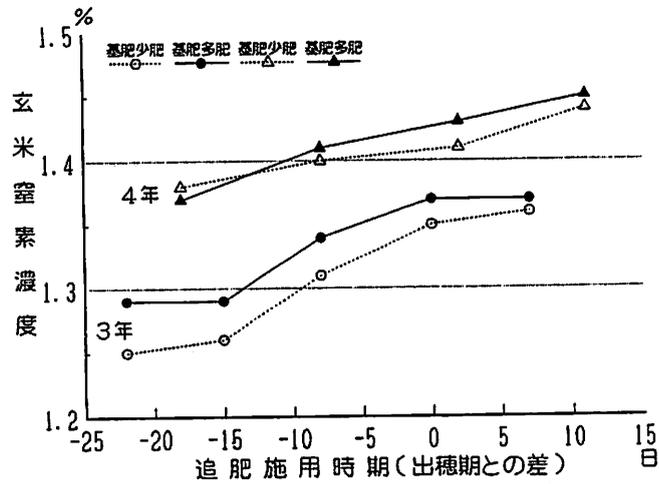


図2 追肥時期と玄米窒素濃度（ヒノヒカリ）

注）①総肥は窒素4kg/10aを一度に施用

②基肥少肥は窒素4kg/10a、多肥は7kg(平3年)、8kg(平4年)

[その他]

研究課題名：ヒノヒカリの品質向上のための生育診断法

予算区分：経常

研究期間：平成4年度（平成3～4年）

研究担当者：田中浩平、角重和浩、川村富輝、原田皓二

発表論文等：平成3～4年度 農産研究所夏作試験成績概要書